

教育研究業績書

2017年05月29日

所属：英語文化学科

資格：教授

氏名：波多野 和子

研究分野	研究内容のキーワード
学位	最終学歴
文学修士	武庫川女子大学大学院 文学研究科 英語・英米文学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. Alexander Pope's Poetry and His Little Kingdom	単	1999年07月	英宝社	18世紀前半を代表する英詩人アレキサンダー・ポープは諷刺詩★The Dunciad☆(1728, 1743)で、政治の腐敗と文化の退廃を同一視して表わした。ポープは詩人としてその社会的現象の証人、すなわち、スポークスマンの立場からこの詩を創作している。この点に留意しながら、ポープがその対極においた美的価値観、'innocent pleasures'に焦点をあてた論文等を収集したのが、本著書である。全 (pp. 157)
2. Autumn Stone in the Woods: A Tribute to Lindley Williams Hubbell	共	1997年12月	P. S. A Press	1994年10月2日、詩人Lindley Williams Hubbellが、京都で他界した。93才であった。詩人は、日本に帰化(1960年)して、日本名を林秋石と名づけた。この追悼文では、故人が英文学者として英文学作品(シェイクスピア、17世紀の英詩、現代詩)を教える際の芸術に対する、真摯な態度と故人が愛した日本の代表的演歌歌手への接し方に、共通点を見出し、書き留めた。(pp. 25~27)
2 学位論文				
3 学術論文				
1. The Decline of the Old Values in ★The Deserted Village☆	単	2005年03月	Mukogawa Literary Review	Oliver Goldsmithの代表作、★The Deserted Village☆は1770年に発表された。新しい勢力の台頭により、伝統的価値観が消失する過程を、荒廃した村と村から追放された村人にとるとともに、伝統的な英詩の衰退ともみる。
2. 'Peace and Plenty' motif in ◆Windsor Forest◇	単	2002年05月	Mukogawa Literary Review 38号	アレキサンダー・ポープの初期の詩、◆Windsor Forest◇(1713)が作られた時期にポープは絵画のレッスンを受けていた。その関連もあり、絵画や彫刻で使用されるモチーフの'Peace and Plenty'が、ユトレヒト条約締結を讃える詩の主題を支える重要な役割を果たしている。「絵画と英詩」を姉妹の芸術とみなしながら、このモチーフが政治的意図をも暗示している点に注目し、その役割のもつ意味を考察した。全 (pp. 11)
3. Pope's Poetry and Its Pictoria	単	1999年11月	武庫川女子大学文学部	18世紀の詩人アレキサンダー・ポープは、特に、晩

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
1 Effects			五十周年記念論文集 和泉書院	年、時代を記録するという使命感から作詩している。それと同時に、若い頃、画家をめざした時期があり、詩と絵画を‘Sister Arts’と呼び、イギリス絵画の中でも、他の国々と同様に、高い地位の歴史絵画を描くように、師であるJervasに進言した。「詩と絵画」を並列しながらポーブがめざしたテーマに焦点をあてた論文である。全 (pp.15)
4. Pope’s Poetry and His ‘Little Kingdom’	単	1999年02月	Mukogawa Literary Review 35号	Alexander Popeは、詩人としてだけでなく、当時、流行した代表的風景式庭園をTwickenhamに造園し、庭園造りの・‘taste’ 論争の中心にいた。本論文では、Popeの詩と庭の関連を考察し、いかに、庭がPopeの詩に影響を与え、重要な役割を果たしているか、という点に注目し、論じた。(pp.23) (pp.17~39)
5. Architectural Allusions in Alexander Pope’s Poetry	単	1998年03月	Mukogawa Literary Review 34号	1711年、Shaftesbury卿はナポリから手紙で新しい時代を代表する建築様式の必要性を説いた。PopeのバトロンであったBurlington卿はバラディオ式建築様式の復興運動をおこした宮廷建築家であった。PopeはToryのスポークスマンとして、建築様式をめぐる‘taste’ 論争を政治論争の一環とみなし、詩の中で引喩として用いた。この点に着目し、論じた。(pp.125~137)
6. Pope’s Intent of To Burlington and Its Denial	単	1997年03月	Mukogawa Literary Review 33号	1731年、PopeはThe Epistle to Burlingtonを‘good taste’ という副題で発表した。1729年に発表したDunciad Variorumへの非難から、反対勢力により攻撃を受け、Timon’s Villaの問題を契機に副題を‘bad taste’ に変える。その背景にあった政治的対立とPopeの美意識との関係について考察する。全 (pp.133~150)
7. Pope and ‘The Pope and Cibber Controversy’	単	1996年03月	Mukogawa Literary Review 32号	Alexander Popeの★The Dunciad☆の1728年版と1743年版では、dunceの王がTheobaldからColley Cibberにかわった。この論文では1717年に遡り、それ以降発表された両者の確執を描いた諷刺・パンフレットを参考にしながら、主人公がCibberへと変更された理由を、考察した。特に、当時の政治論争(政府側と反対側)が、Pope-Cibber論争の根底に存在することに注目して論じた。全 (pp.17)
8. Alexander Pope and ‘The Royal Poet’	単	1995年01月	★Mukogawa Literary Review, No. 30☆	Alexander Popeの諷刺詩を研究する上で、同時代の詩人が、特に、Popeの1730年代の諷刺詩では、その諷刺の対象となり、重要な役割をしめる。脱穀人 (Thresher) であった詩人Stephen Duckもそのひとりである。伝統的英詩であるPopeと、Robert Southeyが分類する“our uneducated poets”の中に入るDuck。この論文では、その両者のスタンスを考慮しながら、Popeが‘The Royal Poet’ と呼ばれたDuckを政治的線上に置いて諷刺している点に留意し、考察した。(pp.101-113)
9. The Traditional Values of the Country-house Poem in Alexander Pope’s Poetry	単	1994年01月	★Mukogawa Literary Review No.30☆	アレキサンダー・ポーブは、17世紀の詩人、ベン・ジョンソンの“Penshurst”の詩に描かれた「田舎の邸宅」のもつ伝統的価値観を、1730年代以降の詩で受け継ぎ、野党 (the Opposition) の詩人として対立する政府を新興勢力とみだて、諷刺する詩を残した。この論文では、ポーブが、「カントリー・ハウス」詩の流れをくみ、自らの立場の正当性を明らかにしようとした点に留意し、解明した。(pp.1-11)
10. Likeness and Difference Between Wren’s Architecture And Burlington’s	単	1993年01月	★Mukogawa Literary Review No.29☆	王政復古後、国王チャールズIIの依頼を受け、セント・ポール寺院やロンドン市内の教会を再建した、クリトファー・レンの建築様式とそのコンセプトと18世紀英国のパーリントン卿のバラディオ式建築様式のコンセプトを、時代による建築様式の類似点、相違点の比較研究を通して社会的、政治的、美的、道徳的価値観の変化をみる。(pp.103-111)
11. ★Pope’s View of Women☆	単	1991年02月	★Mukogawa Literary Review No.27☆	ポーブの女性論は、★Epistle to a Lady☆にみられる様に父権制度の中で築かれた一般論の域をでるものではない。男性は「公的生活」を送り、女性は「私的生活」を送るという考えのもとに、女王を始めとし、「公的生活」を送る女性を諷刺する。が、弱い立場にある女性には同情する。その背景にある原因を究明する。(pp.1-8)
12. ★Alexander Pope’s Stance as a Satirist☆	単	1990年02月	★Mukogawa Literary Review No.26☆	1688年の名誉革命以後、カトリック教徒に対する弾圧が行われ、カトリック教徒の家庭に育った詩人ポーブはスウィフトと同様に野党のトーリーを支持した。1730年頃から、ウォルポール政権に対する激しい攻撃を諷刺詩で行う。その際、自らの立場の正当性を擁護するレトリックを用いた。この点を中心に論じた。(pp.15-21)

その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 関西圏英学校の文化的役割	単	2008年03月		関西圏を中心とするキリスト教系の女学校(4校)が交流を図ることを目的とし発行された雑誌『めぐみ』の果たした役割について言及。
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. (小論文) 研究ノート ★Shafte sbury's Optimism and Mandev ille's Pessimism☆ ★Mukog awa Literary Review No.28☆		1993年		
2. (小論文) 一枚の絵と詩 ★ Mukogawa Literary Review No .23☆		1993年		
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
	日本英文学会 日本アメリカ文学会 日本シェイクスピア協会 同志社大学英文学会 日英・英語教育学会 日本エズラパウンド協会